メルボルンに住む高齢女性と別居子との関係

岡山大学　野邊　政雄

1　目的

本報告の目的は、高齢女性と別居子との距離と別居子の性別が高齢女性と別居子との交流にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることである。

2　方法

そこでデータとして、メルボルンの高齢女性の調査データを用いる。報告者は、2005 年と 2006 年の 8 月と 9 月にメルボルン大都市圏のＧ市で 65 歳以上 80 歳未満の高齢女性に対して調査員による個別面接調査を実施した。事前に調査依頼の手紙を投函し、調査されることに同意した女性のみを調査した。モナシュ大学の倫理委員会の審査を受けて、調査を実施した。調査地は都心に近い郊外住宅地である。オーストラリアでは、母集団の台帳を作成し、無作為抽出することができない。そこで、国勢調査のデータが公表される最小の地域である Collection District(CD)のデータを用いて、できるだけ無作為になるように標本を選んだ。標本数は 398 である。高齢女性と別居子との間の交流の指標として、①対面的交際頻度、②電話、手紙、イーメールなどによる接触頻度、③ソーシャル・サポートの入手を採用した。ソーシャル・サポートとして、(1)回答者が入院した場合の世話、(2)200～300 オーストラリア・ドル(14、000～21、000 円）の借金、(3)仕事上の話と相談、(4)心配事の相談、(5)失望や落胆をしているときの慰め、(6)留守のときの家の世話、(7) 些細な物やサービスの入手、(8)交遊を取り上げた。別居子の居住場所は、(1)歩いて 15 分以内の地域（「近隣地域」と呼ぶ）、(2)（近隣地域を除外した）サバーブ、(3)（近隣地域とサバーブを除外した）5 キロ以内のメルボルン大都市圏、(4)（近隣地域とサバーブを除外した）5 キロ以内のメルボルン大都市圏、(5)（メルボルン大都市圏を除外した）ビクトリア州、(6)（ビクトリア州を除外した）オーストラリア、(7)外国の 7 つとした。個々の高齢女性に複数の別居子がいることがあるから、高齢女性ではなく高齢女性と別居子との関係を単位として分析をおこなった。

3　結果と結論

(1)別居子が近くにいるほど、高齢女性は別居子と対面的交際と電話、手紙、イーメールなどによる接触を頻繁におこなっていた。また、高齢女性は息子よりも娘と頻繁に面的交際をし、電話、手紙、イーメールなどによって接触をしていた。

(2) 対面的交際頻度や電話、手紙、イーメールなどによる接触頻度を統制しても、別居子が近くにいるほど、高齢女性は別居子にサポートを期待できた。

(3) 対面的交際頻度や電話、手紙、イーメールなどによる接触頻度を統制したとき、高齢女性が息子にサポートを期待しやすい項目、娘にサポートを期待しやすい項目、別居子の性別に関係ないサポート項目があった。娘に期待しやすいのは「入院時の世話」、「心配事の相談」、「慰め」、「交遊」であるのに対し、息子に期待しやすいのは「些細な物やサービスの入手」であった。